

ハダニを専食する *Holobus* 属ハネカクシの 分類学的知見と種の識別

京都大学大学院人間・環境学研究科 かな **金** お **尾** たい **太** すけ **輔**
九州大学総合研究博物館 まる **丸** やま **山** むね **宗** とし **利**
沖縄県病害虫防除技術センター おお **大** の **野** すぐる **豪**

はじめに

ヒメハダニカブリケシハネカクシ *Holobus kashmiricus* *beneficus* (Naomi) (以下ヒメハダニカブリと略す) (図-1) およびハダニカブリケシハネカクシ *H. yasumatsui* (Kistner) (以下ハダニカブリと略す) (コウチュウ目：ハネカクシ科) は、ヒゲブトハネカクシ亜科ケシハネカクシ族に属する体長約 1 mm の微小種であり、農作物を加害するハダニ類の天敵として注目されている。両種は、関東以南の日本本島および韓国において同所的に発生する (下田ら, 1993 b; 下田・芦原, 1996; KIM and CHOI, 2000)。また、現在のところ琉球列島にはヒメハダニカブリのみが記録されており、台湾からは、ハダニカブリと *H. flavicornis* (Boisduval & Lacordaire) の分布が報告されている (CHEN and Ho, 1993; KANAOKA et al., 2016)。

Holobus 属は、過去に *Oligota* 属の亜属とされたが、現在の分類体系では独立した属として扱われている。しかし、現在も旧体系が踏襲されることがあり、*Holobus* の分類階級は混乱している。ヒメハダニカブリとハダニカブリにおいても同様に、両種が記載された際に *Holobus* は *Oligota* 属の亜属として扱われたため (KISTNER, 1969; NAOMI, 1984)、応用的な研究報告では現在も学名の異なる表記が散見される。

日本における *Holobus* 属は、ヒメハダニカブリとハダニカブリに加えて、分布や生態情報が極めて乏しいマルハダニカブリケシハネカクシ *H. antennatus* (Bernhauer) とコマルハダニカブリケシハネカクシ *H. kurama* (Nakane) も知られている。いずれも体長 1 mm 前後の微小種であり、種同定には詳細な形態比較を要する。

本稿では、分類体系の現状の正しい理解と正確な種同定の一助として、*Holobus* の分類階級の変遷を解説し、

日本産種の形態的な区別点を検索表とともに説明する。また、ヒメハダニカブリの基礎的な生態情報を概説する。

I *Holobus* の分類階級

Holobus 属は、ヒメハダニカブリやハダニカブリと同様に農作物を加害するハダニ類の天敵である *H. pigmaeus* Solier を模式種として、1849年に創設された (SOLIER, 1849)。創設から10年後、*Holobus* は *Oligota* 属の同物異名 (シノニム) とされ (KRAATZ, 1859)、それ以降は *Oligota* 属の亜属として扱われた (GANGLBAUER, 1895; SHARP, 1908; BLACKWELDER, 1952 等)。

1967年、*Holobus* は再び属に昇格された (COIFFAIT and SAIZ, 1967)。ここで *Holobus* 属は、①腹部の幅が末端に向かい細くなること、②上唇の前縁中央が強くてえぐれること、③右大顎に明瞭な歯がないこと、④下唇の舌の先端が丸いことで定義されている。これに対して *Oligota* 属は、①腹部が末端手前まで同じ幅であること、②上唇の前縁がえぐれないこと、③右大顎に一つの明瞭な歯を有すること、④下唇の舌の先端が二分割することで定義されている。これ以降、*Holobus* の分類階級が正式に変更された例はない。

しかしながら、1967年以降も *Holobus* は *Oligota* 属の亜属として扱われることがあった。FRANK (1972) は、



図-1 クズの葉上のヒメハダニカブリケシハネカクシ

Taxonomy and Species Identification of Acarivorous Rove Beetles, *Holobus* species in Japan. By Taisuke KANAOKA, Munetoshi MARUYAMA and Suguru OHNO

(キーワード：基礎生態、種同定、天敵、ハダニ、ハネカクシ、分類階級)